

令和4年度 卒業証書授与式 校長式辞  
(普通科60期生 理数科52期生)

矢の原台にも、少しずつ春の息吹が感じられるようになりました。

本日ここに、令和4年度 島根県立松江南高等学校 卒業証書授与式を挙行し、ただ今、238名に卒業証書を渡すことができました。卒業生の皆さん、保護者・ご家族の皆様、誠にありがとうございます。今日まで共に歩んでくださったPTAを代表して、会長の中澤様、副会長の石倉様、前島様、堀尾様にご臨席を賜りました。ご多用の中、誠にありがとうございます。

このたび卒業を迎える全国の3年生諸君は、新型コロナウイルスの影響により、前例のない高校生活を送ってきました。入学してまもなく2か月近い臨時休校に入り、行事や大会の中止、マスク生活や黙食など、まるで長いトンネルにいるような閉塞感を味わったことと思います。そんな中でも皆さんは、60周年を節目とする「南高第二幕」の原動力となり、各分野で力強く引っ張ってくれました。

その一つが新たな学びへの挑戦です。本校は、皆さんの入学と同時に県内3校目のスーパーサイエンスハイスクールとして動き出し、理数科・普通科の全学科を対象に、独自の教育プログラムを開発し取り組んできました。皆さんは初めての課題研究や幾多の発表会に挑み、地元から海外に至る魅力的な方々との出会いをとおして学びを深めました。苦い失敗も経験しながら、自らの意志でまた次の挑戦を始めていく姿を、我々は嬉しい驚きと共に見守り応援してきました。

さらに、南高を大いに盛り上げ勇気づけてくれたのが、行事や部活動での躍動です。感染予防に努めながら、生徒会が中心となって工夫を凝らした朱雀祭や創立60周年式典。そして3年生の6月、南高パワーを結集してついに成し遂げた県高校総体の総合優勝。近年最多ではないかというほどの文化部・運動部が、全国や中四国の大舞台に立ちました。その勢いと数々の貴重な経験は確実に後輩たちに引き継がれ、次なる開花の時を待っています。

「失われた3年」——よく耳にする言葉です。もしかすると、この時代はそんな表現で歴史に刻まれるのかもしれませんが。しかし、この矢の原台には間違いなく皆さんの「三とせの青春」がありました。笑顔がはじける喜びも、胸がつぶれそうな悲しみも、言葉にならない悔しさも、確かにここに存在し、皆さんは勇気と思いやり、友情を育みながら、一步一步、歩んできました。

今すぐでなくともよいのです。いつか皆さんが、南高で過ごした日々を、「辛抱」とか「無念」といった言葉も呑み込んでしまうほどキラキラ輝く思い出として語り合ってくれる日が来てほしい。それこそが、皆さんを見守ってこられたご家族、そして3年間を共に走ってきた我々教職員や南高応援団の方々にとって、何よりの喜びです。

春3月、必ず思うのが12年前のことです。南高で3年担任として生徒を送り出した直後に、東日本大震災が発生しました。大学の後期試験や下宿探しのため東に向かっていた生徒たちに、安否確認の電話をする、自分の指も声も震えていたことが忘れられません。どんなことも起こり

うるのだと思い、「あした」という言葉が重みをもって胸に迫りました。

今、これだけ科学技術が発達し、世界が瞬時につながる時代になっても、戦いや災害のために子どもたちが家族も学校もふるさとを失い逃げ惑っている現実があります。当たり前「あした」の自分を考え、安心して朝を迎えることができないという現実。私たちにできることは何なのでしょう。無力感に苛まれます。

でも、地球市民の一人として、この世界を知ろうとすること、思いを寄せることが、ささやかでも大切な一歩ではないかと思えます。若い皆さんが、高校で、さらにこれからの世界で培っていく学びは、あなたも世界も幸せにするためのものであってほしいと切に願います。

さて、皆様、今日の「式次第」にお気づきでしょうか。3年ぶりに「校歌斉唱」の文字が入りました。3年生が、入学以来初めて全員で校歌を歌います。覚えていなくても大合唱はできなくても、歌は力、歌は人を励まし支えてくれます。母校の景色や学ぶ者の気概、刻んだ足跡、すべてが込められたこの校歌と共に、さあ、おおらかに踏み出してください。

保護者の皆様。大人も経験したことのない状況が続いたこの3年、ご自身も悩み迷いながら、お子様を見守ってこられたことと思えます。心配を胸にお子様を寄宿舍等に送り出された方もあられるでしょう。彼らは本当によく頑張りました。皆様の3年間に心から敬意を表し、晴れのご卒業をお祝い申し上げます。

まもなく矢の原台に桜の季節が訪れます。宍道湖の碧水を望むこの校舎はいつまでも皆さんのふるさとです。普通科の、記念すべき60期生の皆さん。理数科を締めくくり次の世代に引き継ぐ大役を果たした52期生の皆さん。この地で結ばれた強い絆を胸に、新たな世界に羽ばたいてください。

皆さんの前途に幸多かれと祈り、はなむけの言葉といたします。

令和5年3月1日

島根県立松江南高等学校

校長 倉崎千草